

第2回 新・神戸文化ホール整備基本計画検討委員会

日時：令和6年9月2日（月）15:00～

場所：神戸市役所1号館14階 大会議室

議事内容

○ 計画の増補案について

〈委員からの意見・提案〉

増補案の検討について

- 新案では「多目的ホールとして望ましい残響時間を確保する」とあるが、表現が抽象的かと思う。「目的に応じた残響時間を確保する」「目的に応じた響きや明瞭さ、聴こえやすさ」などの表現のほうがわかりやすいのではないか。
- 障がい者への配慮は前提として、「特に高齢者に配慮する」などの文言をいれてはどうか。
- 「ユニバーサルデザインの考え方に適合した客席空間を整備する」などホール機能に書いてもよいのではないか。
- P20「管理運営の考え方」について、きちんと市民参画を打ち出したほうがよいのではないか。もちろんプロフェッショナルも大切だが、実演家とは誰かというのを含め、市民参画も施設の運営の柱として取り入れるというのを打ち出せないかと思う。
- 搬入車両の駐車の問題がある。市として他の駐車場と連携することや事前申し込みを受け付けるなど、現段階から示せないか。

今後の検討項目（課題）について

- 音響については、建築空間の基本的な性能を備え、電気的なものに頼らずとも聴こえやすさや響きの部分について追及することが重要だと思う。
- 劇場の内装について、音楽ホールを利用される方は「明るい壁の色と、客席も暗転しない色調がよい」と言う方が多いが、演劇関係やバレエ、舞踊の方は「黒の壁で暗転できる色調、光るものは消したい」とおっしゃる。そういった調整も必要となる。
- 市民参加については、鑑賞事業や市民とともに行う事業のバランス、レジデント公演をどの程度行うのかという調整等々がでてくる。運営協議会などの組織を立ち上げ、市民と実演家、専門家がともに議論するというイメージがある。

- 搬入車両の駐車の問題がある。市として他の駐車場と連携することや事前申し込みを受け付けるなど、現段階から考えていかねばならないのではないかと。
- 2000人の観客が終演後に一気に移動することを想定した動線のシミュレーションが必要だろう。
- 組み立て式の花道や能舞台、バレエ用の床などを持つ場合、倉庫機能が足りなくなることが想定される。

別途、これまで検討委員からいただいた意見を事務局でとりまとめ、今後策定する施設計画や管理運営計画において、下記の点について留意することを確認した。

- ・ 神戸市室内管弦楽団と神戸市混声合唱団がレジデントするホールとして相応しい機能を有したものとする
- ・ 幅広いニーズにフレキシブルに対応するためには、最新の設備を備えるとともに、利用者のニーズを汲み取り、劇場を使いこなす運営力も重要であることを念頭におく。
- ・ 吊物設備は舞台照明や舞台美術を多用した演目にも対応できるよう十分な本数を確保するとともに、セットの大型化・重量化などの傾向にも耐えられる積載荷重、速度（無段階可変速）とする。
- ・ 楽屋と舞台の動線はすべての出演者（やスタッフ）が円滑に行き来できるように計画する。可能な限り同じ階となることが望ましい。
- ・ 中ホール（Ⅱ期）のリハーサル室や練習室は、大ホール（Ⅰ期）で本番を行うことも想定した仕様とし、楽器や道具の運搬動線も計画する。
- ・ 大ホール側（Ⅰ期）と中ホール側（Ⅱ期）を結ぶ各種通信設備を設ける。例えば電話（内線、外線）イントラネット、無線、映像モニター、音声モニター、楽屋呼び出しなど。

以上